

テーマ展「戦時下沖縄の警察部長荒井退造一辞令と写真からたどる足跡」関連行事

# 荒井退造関連 DVD 鑑賞会

## 【趣旨】

第二次世界大戦末期、日米合わせて約 20 万人の死者を出した沖縄戦の悲惨さは広く知られています。そのなかでも、戦中最後の沖縄県知事であった島田叡は、最も困難な時期に自らの命の危険を承知で沖縄に赴任し、県民のために尽くしたことで有名です。その一方、沖縄で島田知事に並ぶ恩人として語られる荒井退造警察部長に関しては、出身地である栃木県ではこれまで注目されてきませんでした。

近年、荒井退造の活動が取り上げられる機会が増え、郷土の偉人として注目されつつあります。そこで、栃木県立博物館テーマ展「戦時下沖縄の警察部長荒井退造一辞令と写真からたどる足跡」の開催にあわせて、沖縄戦の悲惨さや、荒井退造および島田叡知事の活躍を紹介した DVD の鑑賞会を開催し、両名の歴史的な重要性を広く紹介いたします。

①主催者あいさつ・事務連絡	13:00～13:10
②TBS 報道ドラマ「生きる」～戦場に残した伝言～ 上映	13:10～15:10
休憩	15:10～15:30
③財団法人島守の会製作「島守の塔」上映	15:30～16:00

## TBS 報道ドラマ「生きる」について

2013 年 8 月 7 日に放映されたこの番組は「沖縄の神様」と今も慕う人たちがいる、戦中最後の沖縄県知事を務めた島田叡（しまだあきら）の実話を、ドラマとドキュメンタリーでお送りする終戦特別企画です。

昭和 20 年 1 月、内務省からの異動で赴任し、6 月 23 日の沖縄戦終結の日までの 5 ヶ月間を、沖縄県民と共に生き抜いた島田叡沖縄県知事。赴任前、大阪府内政部長であった島田は、沖縄戦の始まる 2 ヶ月前に沖縄県知事の内示を受けた。赴任後は、命がけで沖縄住民を守るために様々な改革に着手し、陸軍との交渉を試みました。

番組では、そんな島田の生き様を、過去の戦争フィルムと関係者の証言、当時の手紙などの貴重な資料を基に、報道ドラマとして再現。ドキュメンタリーと併せて、島田を通して沖縄戦がどのような戦いであったのかを伝えていきます。また、島田は中学時代から野球のスタープレイヤーとして名を馳せており、知事としての島田だけではなく、「野球人としての島田」「人間としての島田」の魅力も描いていきます。



島田叡肖像写真  
提供 那覇市歴史博物館



荒井退造肖像写真  
当館蔵（荒井文子氏寄贈）

<スタッフ>制作プロデューサー：藤原康延 番組プロデューサー：黒岩亜純  
総合監修：岩城浩幸 ドキュメンタリーチーフディレクター：佐古忠彦  
ドラマデザイン：三城真一 ドラマ脚本：土城温美 ドラマプロデューサー：前田利洋  
ドラマ演出：酒井聖博 製作著作：TBS

## <ドラマあらすじ>

沖縄戦が始まる2ヶ月前の1945年1月末、一人の男が沖縄県知事に就任した。前任の知事・泉守紀（大原康裕）が、職場放棄同然で沖縄を脱出したためだ。

そこで、白羽の矢が立ったのが、大阪府内政部長の島田叡（緒形直人）だった。

まもなく戦場になることが目に見えている沖縄への赴任を引き受けるのかとの周囲の懸念をよそに、島田は辞令を拝命した。

中学時代から野球のスタープレイヤーとして名を馳せ、内務省でも気骨のある官僚として豪快な噂を持つ島田を迎えたのは、沖縄県警察部長の荒井退造（的場浩司）だった。

赴任とともに島田は、「県民のため沖縄のため」をモットーに様々な改革に着手する。

そんなとき、海軍沖縄根拠地隊司令官の大田実（石橋凌）が、島田の歓迎会を開くと言ってきた。軍とは何かと衝突していた県庁や警察部の面々は難色を示すが、島田は荒井たちを伴って酒宴に赴く。

島田の赴任後ほどなく、戦況が悪化の一途をたどり県民が死にさらされ、食料や避難民の受け入れなど様々な深刻な問題がのしかかってきた。

米軍の激しい攻撃から沖縄を守るため、島田と荒井は砲弾をかいくり陸軍第三十二軍司令官の牛島満（西郷輝彦）と参謀長の長勇（田中要次）のいる司令部壕へ直談判に向かった。

そこで島田が軍の幹部たちに発言したことは…。

## 映像記録「島守の塔」について

沖縄戦で殉職した、戦前最後の沖縄県知事島田叡、警察部長荒井退造、以下468人の沖縄県職員を祀った「島守の塔」が、激戦地摩文仁の丘に建てられてから60年近い歳月が流れました。

塔の除幕式と第一回慰霊祭は、昭和26年（1951）6月25日に、島田知事夫人美香子氏をお迎えし、5,000人近い一般の方々が参列して行われました。

戦後復興が始まった当時、塔の建立には、生き残りの元県職員や遺族たちだけでなく、琉球政府当局や一般の方々の関心も呼び、多くの浄財や労働奉仕の協力が寄せられました。「塔名」の公募には700余りの応募があり、「島守の塔」が選ばれました。

激しい戦火を生き抜いた人々は、この「島守の塔」にどのような思いを込めたのでしょうか。

その後、塔は、元県職員や遺族で組織された「財団法人 島守の会」によって維持管理され、毎年慰霊祭が行われてきました。

しかし、戦後64年がたって関係者の高齢化が進み、会員も年々減少し、組織そのものの存続さえ危惧されるようになってきています。

2008年に製作された、映像記録「島守の塔」は、沖縄戦での沖縄県職員の働きを関係者の証言をまじえて紹介し、塔誕生の背景や、それに込められた県民の思い、戦後の島守の会の活動などを、わかりやすく描き、幅広く若い世代にも訴える内容となっています。



荒井退造終焉の地にて  
当館蔵（荒井文子氏寄贈）

### テーマ展荒井退造 このほかの関連行事

(1) 展示解説 8月3日（土）14:00～15:00（展示室2） 定員20名

(2) 学芸員とおき講座「戦時下沖縄の警察部長 荒井退造」

8月18日（日）13:30～15:00（研修室） 定員80名 予約受付中 無料